

大飯発電所1号機プラント排気筒ガスモニタの 一時的な指示値の上昇について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所1号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力117.5万kW）は第23回定期検査中で、調整運転中のところ、本日14時46分から15時03分にかけて、プラント排気筒ガスモニタの指示値がわずかに上昇（通常値約14.5cps、最大約19.4cps）していることが確認された。

この時間帯において、放射性物質の放出に係る作業として、1号機の体積制御タンク*¹水位計の点検作業が行われており、この作業では、体積制御タンク水位計の指示が通常より低い値を示していたことから、水位計の検出配管に水が滞留している可能性があるとして判断し、検出配管内の水をドレン弁を開いて、ドレン配管の先に仮設ホースを介して設置したビニール袋に、系統内の放射性ガスとともに回収していた。

この作業に関するこれまでの調査では、14時42分にドレン弁を開いた直後に、現場に設置した仮設モニタの指示値が上昇したため、直ちにドレン弁を閉じたが、室内に漏れ出した放射性ガスがプラント排気筒に排出され、モニタの指示値が上昇したものと推定されている。仮設ホースとビニール袋はドレン配管から外して別のビニール袋に入れて密封保管している。

今後、放射性ガスが漏れた原因について調査する。

今回、1号機排気筒から放出された放射性気体廃棄物の量を評価した結果、約 4.5×10^8 ベクレルと評価されたが、この放出放射エネルギーは、保安規定に基づく大飯発電所の希ガスの放出管理目標値（ 3.9×10^{15} ベクレル/年）に比べ十分低く、周辺環境等への影響はない。^{*2} また、大飯発電所周辺に設置している環境放射線監視用モニタリングポストの指示値にも有意な変化は認められない。

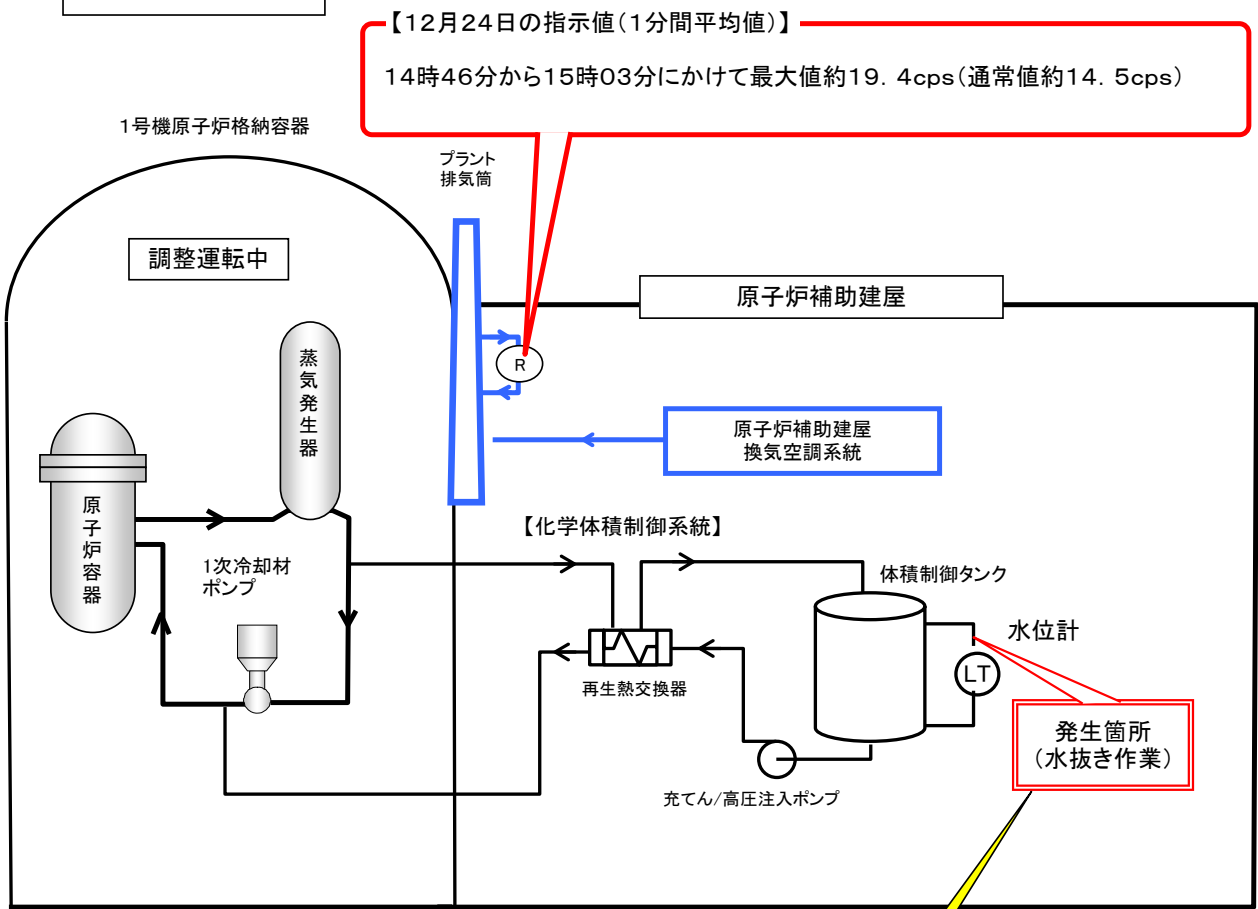
*1 体積制御タンク：化学体積制御系の設備で、原子炉容器や配管内の一次冷却材の量を調整するためのタンク。

*2 大飯1号機の放射性気体廃棄物（希ガス）年度放出実績では、平成18年度は 2.6×10^9 ベクレル、平成19年度は 1.6×10^9 ベクレル、平成20年度は 7.2×10^8 ベクレルである。

問い合わせ先(担当：有房)
内線2354・直通0776(20)0314

大飯発電所1号機 プラント排気筒ガスモニタの一時的な指示値の上昇について

系統概要図



【cps(counts per second)】
放射線測定器において1秒間に測った放射線の数を表す単位。

水抜き作業状況図

